



ThreeBond



# JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

## ROUND.3

### RACE REPORT



SPORTSLAND SUGO



## ポイント奪取へ向けて

全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第3戦が、10月17日（土）～18日（日）にかけて宮城県のスポートランド SUGO で開催された。

所属ドライバーであるタチアナ・カルデロン選手（以下、タチアナ選手）は、イタリアのモンツァ・サーキットでELMS(ヨーロッパ・ル・マン シリーズ)に出走後、新型コロナウイルス感染拡大防止策として日本政府が定めた入国後2週間の隔離期間を確保できないため第2戦に引き続き欠場せざるをえず、今回も代役として塚越広大選手（以下、塚越選手）を起用してレースに臨んだ。

17日（土）は早朝から小雨交じりの天候となった。チームにとって、ウェットコンディションでの本格走行はこれが初めてである。塚越選手はウェットタイヤを装着して慎重に走行を開始すると、前回の第2戦で採用した新しいダンパーの感触を確かめながらピットインを繰り返し出走19台中11番手でセッションを終えた。

午後のフリー走行が始まる頃には雨は止み、コース上では走行ラインが乾き始めていた。塚越選手は、まずウェットタイヤを装着してコースイン、その後ドライタイヤへ交換して、午前引き続き足回りのアジャストを重ねた。セッション残り10分となったところでニュータイヤを使い、タイムアタックのシミュレーションに入る予定だったが、コース上に停止車両が生じてセッションが赤旗打ち切られてしまったためシミュレーションはできなかった。結局、塚越選手のタイムは14番手にとどまり、翌日の公式予選にぶっつけ本番で臨むこととなった。

## 公式予選

18日（日）は朝から太陽が差し、気温は22℃と前日より10℃近く上昇した。塚越選手はQ1のA組で出走したが、前日の状況からチームはタイヤのウォームアップに時間がかかりそうだと判断。塚越選手をセッション開始当初からコースへ入れ充分タイヤを暖めてタイムアタックさせる判断を下した。

その結果、早々に1分5秒451を記録して、まずはトップに立ってタイムアタックを終えた。しかし、その後は他車のタイヤラバーが乗ってコースコンディションが急速に良くなっていき、セッション後半にタイムアタックをした選手が次々に塚越選手を上回るタイムを記録していった。結局、塚越選手の順位は16番手となってQ2進出は成らず、そのままスターティンググリッドが決定した。

## 予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#50 Sergio Sette Camara 1'04.235
2	#20 平川 亮 1'04.288
3	#4 Sacha Fenestraz 1'04.325
16	#12 塚越 広大 1'05.415






## 決勝レース

決勝レースは午後 2 時 55 分に始まった。スタート直後に第 1 コーナーで上位が接触して混乱が生じたが、16 番手グリッドからスタートした塚越選手は、うまく加速して順位を上げ、オープニングラップを 12 番手で終えた。

塚越選手のペースは好調で、4 周目には 11 番手、5 周目には 10 番手、8 周目には 9 番手、11 周目には 8 番手まで順位を上げていった。今回のレースではレース中にタイヤ交換が義務付けられており、タイヤ交換ピット作業はスタートから 10 周目以降に可能となる。

その後、塚越選手は 10 周目、前方を走る #38 石浦宏明選手をオーバーテイクして 8 番手に上がり、さらに 7 番手を走る #3 山下健太選手に追いついた。チームはオーバーテイクのためにタイムロスする前にタイヤ交換義務を消化した方が追い上げに有利だと判断。11 周目に塚越選手をピットへ呼び入れ、タイヤ交換を行って再びコースへ送り出した。

見かけ上の順位を 13 番手まで落とした塚越選手は、上位陣がタイヤ交換を行う間に順位を挽回しようとペースを上げた。ところがポジションを 12 番手とした 19 周目、コース上で発生したアクシデントを処理するためセーフティカーが 10 番手を走る 19 号車関口雄飛選手の前にコースインしてしまった。その結果、塚越選手を含む 10 番手以降の選手はペースダウンを強いられ、9 番手までの上位選手はレーシングスピードで 19 周目を走ってタイヤ交換のためのピットインを行った。こうして上位と下位には大きな差ができてしまった。

セーフティカーの先導が終わり、レースは 28 周目から再開された。塚越選手は上位陣に匹敵するラップタイムで走りながらオーバーテイクのチャンスを得た。ところが 25 周を過ぎる頃からシフトチェンジに違和感を覚えるようになったため、28 周目に予定外のピットインをすることになった。チームは、ギヤチェンジをするためのコンプレッサーに続く配管のトラブルを発見、部品を交換して塚越選手をコースへ送り返したが順位は大きく後退してしまった。結局、塚越選手は 12 周後れでチェッカーフラッグを受けたが、完走扱いとはならずレースを終えることとなった。



		 DRINK RESPONSIBLY		
		 beyond the invisible		
 富士ゼロックス多摩株式会社				 KTEL RACE SERVICE
	 Performance Parts		 SP AIR	
 MIDLAND WEAR				
	 SULAN COOLERS			

## 塚越選手コメント

公式予選は、他のチームに比べて一発のタイムを出すところでパフォーマンスが足りずにQ1で敗退してしまいました。しかし、決勝に向けてセットを変更したところ、前半はすごくいいペースで走れてポジションも順調に上げられました。ピットのタイミングも良かったのですが、SCのタイミングが私にとっては不運で、せっかくの作戦も無駄になってしまいました。その後、トラブルも起きましたが、セーフティーカーが出なければポイントを取れるだけのパフォーマンスがあったと思いますので非常に残念です。今回で代役参戦は一旦終了となる見込みですが、この2戦でクルマのポテンシャルは上がったと感じています。次回、タチアナ選手が戻ってきた時に「すごく良くなった」と実感してくれたらうれしいです。



## 道上監督コメント

今回、レースが行われたスポーツランドSUGOは1周が短いので、0.1秒、0.2秒が命取りになってしまいます。予選はまさに0.1秒足りずにQ1で敗退となりました。総合的に一発でタイムを出すためのポテンシャルが不足していたと思います。ただ、レースに関しては後方グリッドから追い上げるなど、中団より上のレベルで戦えるだけのポテンシャルがあったと思います。残念なのはセーフティーカーが塚越選手の前に入ってしまったこと。早めのピットインが裏目になってしまいました。セーフティーカーがなければ、5番、6番を争っていたのではないかと感じています。次回のオートポリス大会ではタチアナ選手が帰ってきます。彼女にとっては慣れないクルマ、知らないコースでのレースになってしまうので、この2戦で塚越選手が残してくれたデータをしっかり活用して上位目指して挑みたいと思っています。



## 伊与木エンジニアコメント

今回も前回使った新しいダンパーを使い、正しい方向に来ているという手応えがあり、Q1は問題なく通過するつもりでいました。ただ、前日にタイヤの温まり方が悪かったのでそれが不安で早めにコースへ出て温めようと考えていましたが、路面のコンディションは後方車両のほうが良くなっていたようで、作戦が裏目に出てしまいました。決勝ではセーフティーカーのタイミングはうちにとって不運でした。あの前に出ていると全く異なる展開になっていたと思います。しかし決勝レースでは、それなりにパフォーマンスを発揮できるレベルへ来られたかなとは感じています。次戦のオートポリス大会にはタチアナ選手が戻って来ますが、その前にポイントを取っておきたかったのが本音です。



		 DRINK RESPONSIBLY		
		 beyond the invisible		
 富士ゼロックス多摩株式会社				 KTEL RACE SERVICE
		 Performance Parts		

## レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	1	Nick Cassidy	VANTELIN TEAM TOM'S	1h08'11.981
2	20	平川亮	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	1h08'15.955
3	5	山本尚貴	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1h08'23.876
4	16	野尻智紀	TEAM MUGEN	1h08'32.740
5	18	国本雄資	carrozzeria Team KCMG	1h08'36.153
6	5	山本尚貴	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1h08'37.501
7	18	国本雄資	carrozzeria Team KCMG	1h08'38.154
8	38	石浦宏明	JMS P.MU/CERUMO・INGING	1h08'46.552
9	14	大嶋和也	ROOKIE Racing	1h08'51.124
10	6	福住仁嶺	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1h08'51.779
11	19	関口雄飛	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	1h08'57.213
12	65	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	1h08'57.277
13	39	坪井翔	JMS P.MU/CERUMO・INGING	1h09'00.340
14	7	小林可夢偉	carrozzeria Team KCMG	1h09'03.800
15	36	中嶋一貴	VANTELIN TEAM TOM'S	1h09'04.924
<b>DNF</b>	<b>12</b>	<b>塚越広大</b>	<b>ThreeBond Drago CORSE</b>	<b>1h09'06.418</b>
DNF	15	笹原右京	TEAM MUGEN	—
DNF	50	Sergio Sette Camara	Buzz Racing with B-Max	—
DNF	4	Sacha Fenestraz	KONDO RACING	—





## Drivers Ranking

順位	ドライバー	1	2	3	4	5	6	7	合計	点差
		もてぎ	岡山	SUGO	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士		
1	平川亮	3+20	3+8	2+15					51	—
2	Nick Cassidy	5	11	20					36	15
3	山下健太	1+15	-	5					21	30
4	石浦宏明	3	15	3					21	30
5	坪井翔	-	20	-					20	31
6	山本尚貴	-	5	11					16	35
7	Sacha Fenestraz	2+11	1(QF)	1(QF)					15	36
8	野尻智紀	4	1	8					13	38
9	国本雄資	-	4	6					6	45
10	福住仁嶺	6	3	1					5	46
∴										
	Tatiana Calderon	0	-	-					0	51

\*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

## Team Ranking

順位	チーム	1	2	3	4	5	6	7	合計	点差
		もてぎ	岡山	SUGO	AP	鈴鹿	鈴鹿	富士		
1	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	20	14	15					49	—
2	VANTELIN TEAM TOM'S	13	13	20					46	3
3	JMS P.MU/CERUMO・INGING	3	35	3					41	8
4	KONDO RACING	26	0	5					31	18
5	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	6	8	12					26	23
6	TEAM MUGEN	4	1	8					13	36
7	carrozzeria Team KCMG	0	4	6					10	39
8	TCS NAKAJIMA RACING	2	0	4					6	43
∴										
12	ThreeBond Drago CORSE	0	0	0					0	49